

## 2022年度 学位授与式 学長式辞

皆さん、ご卒業誠におめでとうございます。また、ご父母、ご関係の皆さまにも心よりお祝い申し上げます。学位の取得という節目は、同時に新たなステージへの門出を意味します。上智大学を代表して、皆さんにお祝いとエールを送るこの機会を、私自身とても楽しみにしていました。とりわけ、コロナ禍の中で、学生生活が一変した経験を有する皆さんにとって、この節目には特別な意味が付加されているものと思います。困難を乗り越え、学位に到達した皆さんに心からの敬意を表したいと思います。

コロナ禍初期の社会の混乱は記憶に新しいところです。国内外を問わず、世代を問わず、職種を問わず、おそらくすべての立場の人にこの混乱は訪れました。国を越えた人々の移動が容易になったこの時代であるからこそ、その混乱は瞬く間に、また想像を超えて拡大しました。この混乱を最小限に食い止めるべく世界が奮闘するさなか、ウクライナが歴史的な戦禍に見舞われました。この事態を数年前に予見した人がどのくらいいたのでしょうか？グローバル化が進む根底には、国際社会の人々が共生するという理念があると信じていましたが、その幻想は打ち砕かれました。いまだに人間社会は、人間の安全すら保障できない脆弱な姿をしていることを目の当たりにしました。さらに、戦禍の様相に目を奪われている折に、トルコ・シリアでの大震災が起きました。地球という唯一の選択肢の上で繁栄を築いてきた人類ではありますが、その地球は、時と場所を選ばずに、明らかに次元の違うスケールで猛威を振るうという事実を改めて突き付けられました。改めて、これらの災禍において、犠牲となられた方々に哀悼の意を示し、また困難に向き合われている方々に心からお見舞いをお伝えしたいと思います。

皆さんが学生として過ごしたこの短期間に、これらの災禍が間断なく起きたことは、人間社会の長い歩みの中で、あるいはこれからの将来にわたっても、特殊な歴史的位置づけとなるでしょう。しかしながら、社会の予期せぬ変化、望まぬ変化に対して、私たちは無力であってはなりません。自身の信念や志を折ってはなりません。そして、他者、特に弱者への寄り添いを放棄してはなりません。このような時だからこそ、私たち個人の、あるいは属する組織の、そして社会のあるべき姿について、こだわりと理想を持ち続けることが肝要です。大学や大学院への進学を志した当時の皆さんの計画や夢は、その出番を待ち続けているのでしょうか。

皆さんの学修、研究という経験は、個々の能力を研ぎ澄ますことにとどまらず、この社会が持つ人智を磨き上げるという意味を持ちます。今、皆さんは、社会において、明確に役割を担う存在となりました。またご自身の人生に対しては、強力な推進力を具備するに至りました。その役割は誰のために、その推進力は何に対して発揮されるのでしょうか。各々が導き出すこの答えが、皆さんの人生の意義、そのものであろうと思います。

皆さんは、人智を構成する一員であります。人間社会が有する智慧が、人間社会の困難を克服し、正しい方向へと導きます。その導きへの参画こそが、皆さんの人生を鮮やかに彩ってくれるのだと確信します。ただし、私は、華美な道のりを皆さんに期待しているわけではありません。誰かが称賛する価値を追随するだけの達成感も無用です。志のない成功も望みません。私としては、皆さんの歩む道が、信じる正義と、For Others, With Others の精神を拠り所として、自分自身の個性によって描かれ、模倣のできないオリジナリティに溢れ、失敗ですら自信に変えられる信念に支えられていることを望みます。

先ほどカトリック・イエズス会センター ホアン・アイダル神父から、マタイによる福音書の一節が紹介されました。「私が飢えていた時に食べさせてくれた」行為とは、他者すなわち弱者に対する私たちの向き合いの意味を示しています。それをイエスは「私にしてくれたことなのである」と説いています。私たちが、他者に寄り添う気持ちによって、その行動を起こせば、その一つ一つは社会全体に及ぶ大きな行為であると説かれているように思います。皆さんはまず皆さん自身の役割について考えてください。ソフィアファミリーの一員として、For Others, With Others の精神に裏打ちされる皆さんの生き方こそが、この人間社会の歩み方そのものを牽引するものであらうと思います。

皆さんは、コロナ禍以前の大学生生活を経験した最後の学年の方々です。同級生、先輩、後輩、教職員の存在について、その尊さの実感と共に、どのようにつながるかにも気を配られたことと思います。ここに集った皆さんの中で、今後もソフィアファミリーの一員として心のつながりが、強い絆が続いていくことを期待いたします。「母校」とは、皆さんがいつでも帰ることができる、あるいは繋がることのできる拠り所であります。このキャンパスで皆さんを待つ人々の顔触れは変わっていくでしょう。しかし、世界のどこでも、初めて会うソフィアンであっても、私たちは、ソフィアの名の下に「すでにつながった」関係性にあります。ソフィアファミリーのこのつながりは頑強であると同時に、臨機応変でしなやかな関係でもあります。皆さんは、それぞれの立場で、いかなるときでも、このつながりに身を、心を委ねることができます。その心地良さこそがソフィアファミリーの魅力なのです。

この学位授与式が、皆さんの人生の意義に、そして社会が向かうべき正義に対して、ささやかではあるかもしれませんが、一滴となることを切に願います。ご卒業、誠におめでとうございます。

2023年3月28日  
上智大学長 曄道佳明